

研修テーマ 地域共生社会

【班員】

鶴岡 幸村／桑原 厚／白石 誠一／竹内 邦裕

石原 智佳／生田 修大／米倉 希／高橋 直子

【視察先・視察日】

- 1 グッドウィル インダストリーズ オブ コロンビア ウィラメ
ット
(10月 8日)
- 2 シアトル グッドウィル インダストリーズ
(10月11日)
- 3 リカバリーカフェ
(10月11日)

グッドウィル



1. 訪問先（取組）の概要

1923年に設立されたNPO法人グッドウィルは、全米でリサイクル業を展開しているボランティア団体である。全米で2,000店舗以上を展開し、アメリカ・カナダ以外にも12カ国に進出している。視察先のシアトルグッドウィルは24店舗と5つのトレーニングセンターを展開している。リサイクルした古着や中古家電などを再販してその売り上げを慈善団体に寄附している。商品は寄附から成り立っているため店舗、時期によって異なる。グッドウィルを運営している非営利団体は障がい者や失業者に対して、職業教育やキャリア教育等を行っている。ただ職をみつけるだけでなく、キャリアアップの手助けもしており、コミュニティへの貢献度は非常に高い。

グッドウィルの歴史は古く、1902年に、ホームレス用に食品、衣服、家具等が教会に寄附されていたのを、牧師が失業者を使って教会のバザーにて再販売させたのが始まりである。最初は失業者対策として始まった。NPO法が始まる1936年までは、教会の中で取り組んでいたが、取組が広がりスペースがなくなったことで、「グッドウィル」と名づけて教会の駐車場等で店舗を出し始めた。運営費について

は、店舗の収益金と寄附で成り立っており、収益金の8割程度が職業教育などに費やされている。また、寄附については、行政からの補助金ではなく個人や団体からの寄附である。

2. 視察・調査目的

教育・職業訓練を通じた地域の福祉活動を学ぶことを目的とした。

3. 調査概要

グッドウィルは、全米の各州本部組織がそれぞれ独立して成り立っており、地域に応じた店舗展開や、職業訓練を行っている。よって、今回の視察先のコロンビア ウィラメットとシアトルのグッドウィルでの併設職業教育センターでは、プログラム・サービスに違いがみられた。

(1) グッドウィル インダストリーズ オブ コロンビア ウィラメット

コロンビア ウィラメットの職業教育センターは店舗に併設されている。教育プログラムは、最低限のスキルを養成するプログラムとなっており、レベル別に合わせた英語のクラス、word や Excel 等の各種ソフトを用いたコンピューターのスキルアップのクラスが用意され、無料で受けることが出来る。80名程度がプログラムを受けており、受講者の中には日本人の方もいる。

企業への直接斡旋は行っていないが、修了者に対しては職業紹介や、履歴書の書き方などの指導を行っている。また、スムーズな就労のために、修了者に対しては修了証を発行しており、それを用いて企業で採用面接を受けることができる。

○コロンビア ウィラメット職業教育センターでの提供プログラム○





コロンビア ウィラメットのグッドウィル。近隣では最大規模の店舗。

(2) シアトル グッドウィル インダストリーズ

24店舗と5つの職業訓練センターを構えている。ここでは、ウィラメットと同様にレベルに合わせた英語やコンピューターのクラスその他、仕事のスキルを学ぶクラスもある。

クラスは5種類程度あり、1つのクラスにつき約8週間のプログラムで短期大学のようなコース設定となっている。シアトル グッドウィルでの受講者は、90カ国、110言語に及び多様な人たちが通っているため、受講者の多くは、社会人として必要な最低限の教育レベルを受けるためのクラスを受講している。外国人・移民向けの英語の読み書きのクラスから、高校を卒業していない人向けの卒業証書を得るプログラムも用意されている。英語とコンピュータークラスを終了すればすぐに仕事で活かせるように教育をしており、パソコン機器に関しては地元の大企業（マイクロソフト）などから寄附されたものばかりであり、シアトルの立地を生かして連携している。

基礎的なクラス

仕事のスキル

就労サポート

就職

上記のようなスキルを習得したあとは小売などでの接客サービスを学ぶプログラムもある。製造業分野でのプログラムの他にも、今後近い将来、人材のニーズを予測し、それに合わせたスキルを学べるクラスも用意している。実際、シアトルでは現在建設ラッシュが続いており、建設業界での人材ニーズが高まっていることから、それに合わせたスキルを学べるクラスも用意している。

また、履歴書の書き方や、仕事の斡旋などの就労につなげるサポートも行っており、修了者の途中離職率は非常に低い。年間6,000名程度が学んでおり、プログラム修了後は多くの企業に就職をしている。

さらに、通学する人の中には経済的に不安定な人もいるため、訓練外のケアとして、通学に必要なバス利用のためのパスポートの用意や、食事面での必要なサポートなどのケースマネジメントも併せて行っている。



シアトルの職業訓練センター。
コロンビア ウィラメットに比べ大きい。

4. 質疑応答

Q1

ここには有料の職業訓練所もあると思うが重複などしないのか？

A1

重複しないように、各所と連携しながら特色を出している。ここの特色としては、ケースマネジメント（生徒への個人サポート）を無料で提供していること。例えば、グッドウィルで英語を学んで大学に行く場合は、1学期分の授業料を支援している。

Q2

リカバリーカフェとの連携は？

A2

双方で人のやり取りがある。例えばカフェから技術を学びたい人がいれば受け入れて、逆にグッドウィルにカフェの支援が必要な人がいれば紹介する。

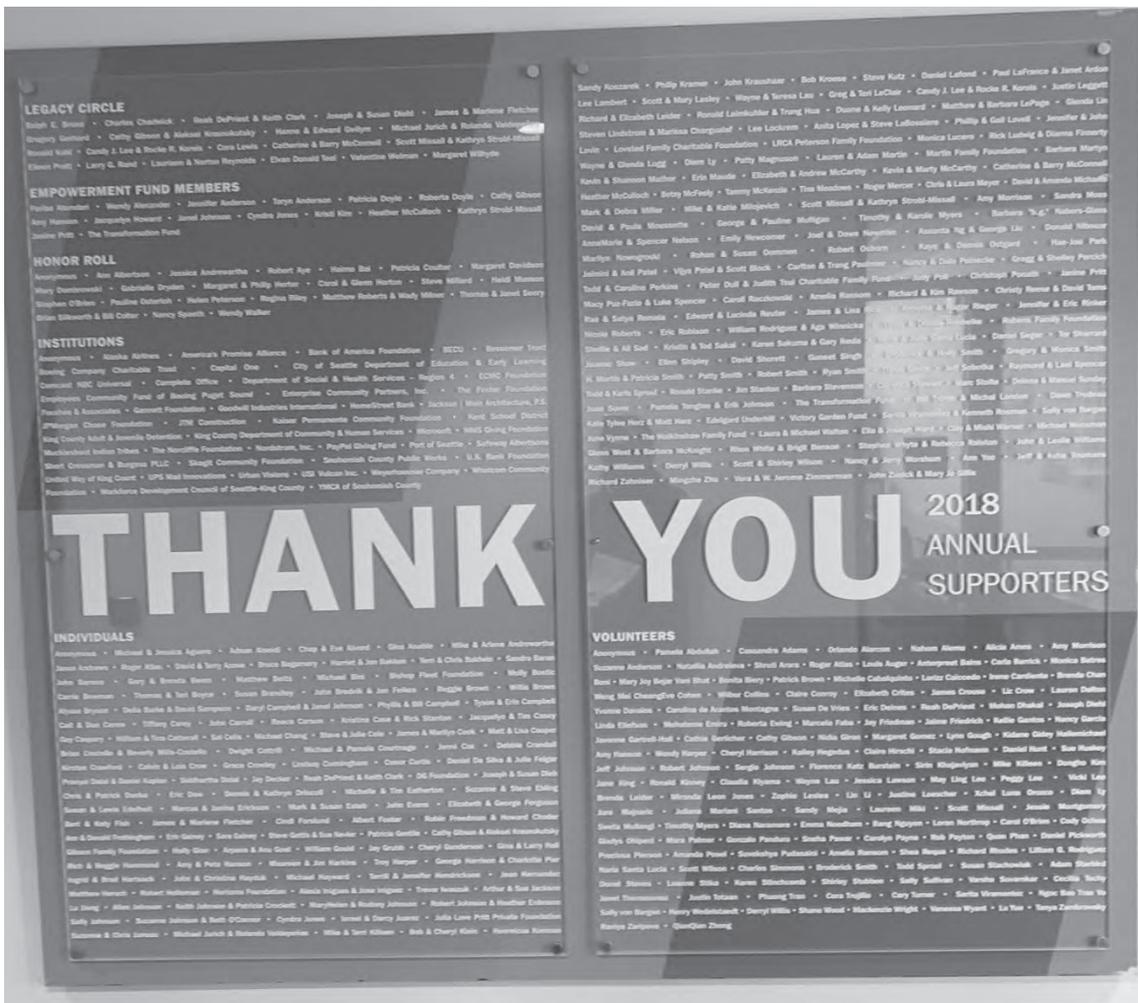
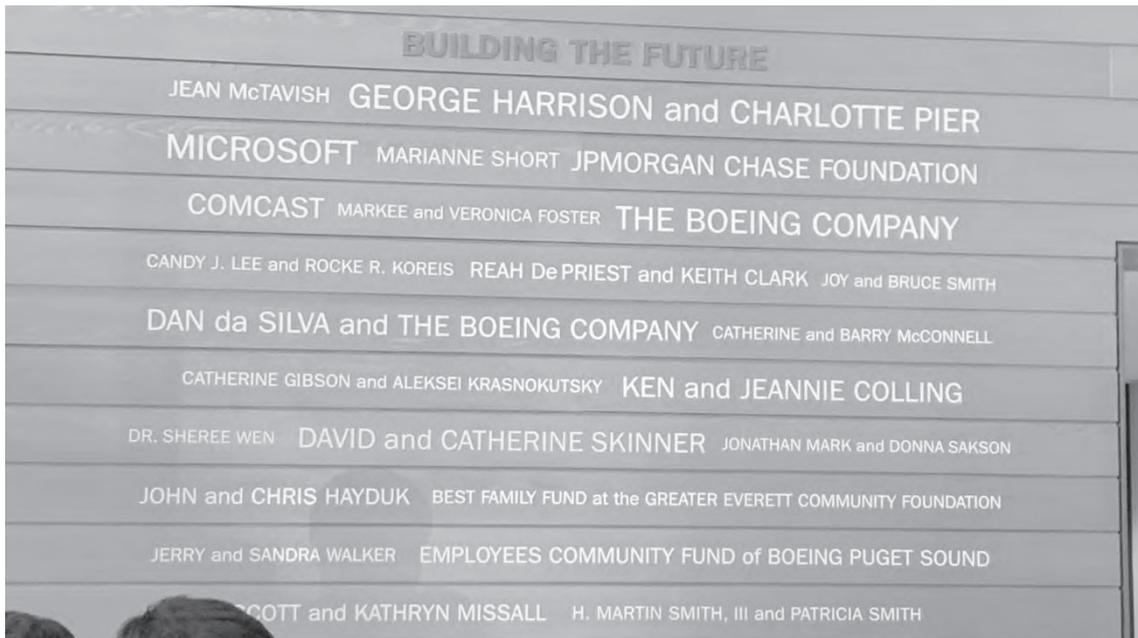
Q3

企業からの寄附が多いように感じるが、そういった習慣があるのか？

A3

昨年度、全米では4兆ドルの寄附がNPOになされたが、そのほとんどが個人からの寄附。キリスト教の精神と思われる。ただ、日本企業も全米に進出しているので、トヨタ財団などはアメリカの寄附文化を学んで、日本に持ち込んでいる。





2018年における支援者一覧
 (毎年寄附をしてきている団体、財団、企業、個人、ボランティア)

リカバリーカフェ



カフェ内で説明者のタクシさんと

1. 訪問先（取組）の概要

2003年に設立されたNPO法人で、低所得者層や薬物中毒患者、ホームレスを救済することを目的とした会費無料の会員制組織で、系列を含めると全米19カ所で展開している。

スタッフの半数はカフェの元通所者であり、薬物中毒患者の家族なども参加している。約40名程度のボランティアで運営している。

「完全に麻薬を断つ」、「皿洗いなどの手伝いを行う」、「所属サークルのミーティングに参加する」の3つを入会の条件としている。

リカバリーカフェの
入会条件

完全に麻薬を断つ

皿洗いなどの
手伝いを行う

所属サークルの
ミーティングに参加

2. 視察・調査目的

今回訪問したリカバリーカフェは、低所得者層や薬物中毒患者、ホームレスを対象とした救済センターである。施設を運営するにあたって、福祉的な役割と財政・経営面について調査した。

3. 調査概要

(1) 福祉的な役割

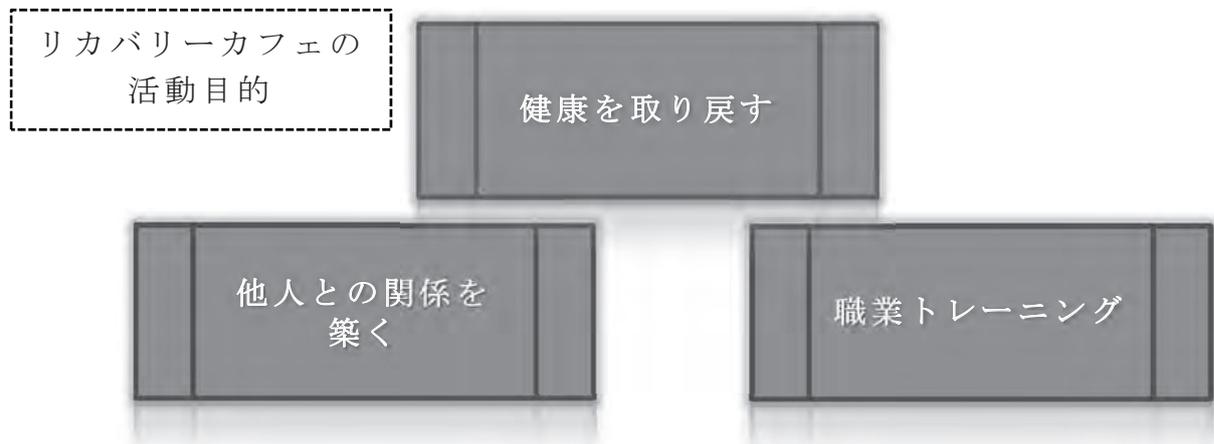
スタッフのタクシさんより、事業概要について説明があった。タクシさんは、ハワイ出身の日系3世の臨床心理学者で、専門分野は薬物、ギャンブル、アルコールなどの中毒関連である。

リカバリーカフェのコンセプトは、中毒患者が、回復後にまっすぐ病院から家に帰るのではなくて、病院と家の中継の場として、依存症患者がお互いの悩みを共有できる場所となることである。

アメリカでは、薬物、アルコール、ギャンブルなどのさまざまな依存症を抱えてホームレスになることが多く、治療を終えたホームレスが数日後には路上生活に戻ってしまうことも非常に多い。それを防ぐ目的や、患者が病院以外で安心してケアを受けられるところが必要であるとの思いからサポートを開始した。

設立当初は病院や「AEA」と呼ばれるアルコール依存治療施設の支援機関とも連携し、治療が終了したらまっすぐ家に帰らせるのではなく、この施設を紹介してもらっていたが、開設から15年が経過し、認知度も向上した結果、口コミで訪れる方もいる。なお、2000年頃からは各種依存症患者のケア以外にホームレス問題にも携わっている。

中毒患者は家族との関係が壊れがちで、他人との付き合いがわからないケースが多いので、他者との関係づくりが改善のスタートとなる。この場所は同じような問題を抱えたメンバーと出会うことにより悩みを共有できる場であり、この場所で問題を抱えたメンバーが、「健康を取り戻す」「他人との関係を築く」「職業トレーニング」を併せて行うことで社会復帰をさせることが活動の目的となっている。



回復に向けたプログラムは35種類あり、「ヨガ」「ウォーキング」「ランニング」など計250名が参加している。寄附をしてくれている企業には運動用のシューズを提供してくれる企業（ブルックス）もある。会員の生活状況や回復具合は、各マネージャーがデータベースで管理しており、各分野の専門家と共有するとともに、所属サークルを欠席したら連絡を取るなどして、会員のニーズに細かく応えている。

またサークルの中で、互いに相談しあう仕組みが出来ており、情報共有ができています。

回復後の職業トレーニングは、会員の自主性に委ねている部分もあるが、調理師免許など就職に必要な資格を取るためのサポートも行っている。病院とも連携しており、月に2回程度看護師が訪問するなど、定期的な体調管理を行ってくれる。

生活支援資金をすぐに渡すのではなく、どのように使うかのアドバイスをして生計を立てる手伝いもしており、安い家賃の家を探していたりフードスタンプの利用を促すなど、生活資金の使い方を教えている。



Recovery Café By The Numbers



Recovery Café
locations in Seattle in
2020



Members of the
Recovery Café Network
in WA State



Recovery Café
Network members
nationally



Peer Support
Recovery Circles
held annually



9 out of 10 Members:

- Have experienced homelessness at some point
- Have experienced some adverse childhood trauma



4 out of 5 Members say the Café:

- Helped stabilize their housing
- Prevented a drug relapse



3 out of 4 Members say the Café:

- Helped stabilize their Mental Health
- Helped prevent an alcohol relapse.



Meals served in the
last year



Recovery Visits
annually

97%

Members who report
that Recovery Café
increased their desire
to be sober

92%

Members who report
that Recovery Café
increased the amount
of hope in their lives



Pounds of food
recovered and
re-purposed into
nutritious
meals this year

数字でみるリカバリーカフェ

- リカバリーカフェはシアトルに2カ所、ワシントン州に8カ所あり、19カ国の国籍を持つメンバーが所属している。
- メンバーの9割はホームレスの経験や子どもの頃に受けた辛い経験についてトラウマがある。

- ・ 8割のメンバーが、リカバリーカフェは居住環境の安定や薬物の再使用防止に寄与していると言っている。
- ・ 6割のメンバーが、リカバリーカフェはメンタルヘルスの向上やアルコール中毒の再発防止に寄与していると言っている。
- ・ リカバリーカフェでは、年間で2,000回のサークル活動が開催され、30,000食、90,000ポンドの食事の提供が行われ、40,000人の来訪者があった。
- ・ 97%のメンバーが穏やかになりたいと思うようになり、92%のメンバーが人生に希望を持てるようになったと回答している。

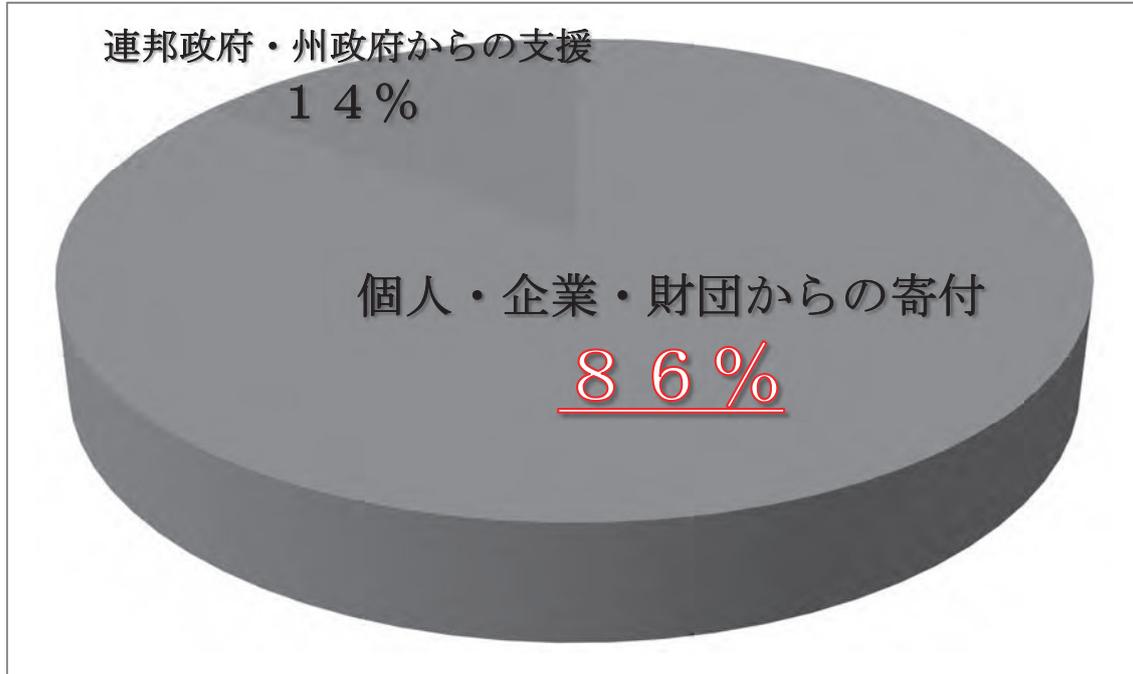
 School for Recovery Schedule Fall 2019 Recovery Café				
DAY	CLASS	FACILITATOR	TIME	START/END
Monday	Yoga	John Wilson	10-12:30 a.m.	Ongoing
Tuesday	Yoga—Meditation	John Wilson	10-10:30 a.m.	Ongoing
	Sustaining Recovery	Ellen Rosen	1:30-2:45 p.m.	9/17-11/19
Wednesday	Yoga	John Wilson	10-11:30 a.m.	Ongoing
	Sole Train Walkers	Sole Train Volunteers	1:15-2:30 p.m.	Ongoing
	Fresh Start	Andrea Olsen	2-3 p.m.	9/18-11/20
	Honoring the Stories Inside	Tim Reilly	2-3 p.m.	10/2-11/20
Thursday	Book Club: Let Your Life Speak	Carolyn Hickman & Christie Cave	12:30-2 p.m.	9/19-11/21
	Meditation as Refuge	Blair Carleton	1-2 p.m.	10/3-11/21
	Sit and Be Fit	Bernie Creaven & volunteers	2-3 p.m.	9/19-11/21
	Wellbriety: Medicine Passages	Sandra Keisner	3:30-5 p.m.	Ongoing
Friday	Safe Place for Writers	Anna Balint & Anne Frantilla	2-4 p.m.	Ongoing
Saturday	Yoga	Michael Jones	10:10-11:30 p.m.	Ongoing
	Sole Train Walkers	Sole Train Volunteers	1:15-2:30 p.m.	Ongoing
	Open Art Studio	Volunteers	2-3:45 p.m.	Ongoing
MUSIC JAM SESSION! SEPT. 14TH @ 2PM Saturday, Sept. 14 th , 2-4 p.m. Serenity Room Facilitator: JJ Stein, Path with Art Join us for a Music Jam Session! Various instruments provided, feel free to bring your own as well! Drop in as you are able. Beginners welcome and encouraged! Supported by Path with Art.		YOGA—ALL LEVELS Multiple days—see above schedule We Room Facilitator: John Wilson, 200 Hour Yoga Alliance Yoga and Meditation classes for all levels—beginners welcome! Monday class includes a potluck lunch and discussion. Talk with John if you are interested in the Yoga Teacher Training program.		

リカバリーカフェのプログラムスケジュール

(ヨガ、瞑想、読書、執筆活動、アートなどのクラスが毎週開催されている。また、ミュージックジャムセッションなどのイベントも定期的で開催されている。)

(2) 財政・経営面

運営費用の14%は連邦政府と州政府からの支援、残りの86%は個人、企業、財団からの寄附で賄われている。食材や備品の寄附も受けている。



シアトルなど大都市では寄附が集まりやすいが、小さな都市では集まりにくい。そのため、経費削減などの経営のビジネスモデルも作成しており、フランチャイズ形式でノウハウを無料で提供している。他の訓練学校との提携も図っている。

シアトルの施設は15年前に開設した。建物を取得したいと思っていたが、高額であったため賃貸で使用していた。2007年頃に世界的な不景気で地価が下がった際に、支援者からの寄附を活用し、建物および隣接地のパーキングを購入した。その後、取得地が再開発区域に指定され、周辺に Amazon.com が参入してきたことにより地価が再び高騰し、パーキング部分を60億円で売却し、シアトルの新たな拠点設立の資金にすることができた。

米国では、ネイティブアメリカンがカジノの運営権を所有しており、カジノを運営するためには各種依存症患者を支援する NPO などに寄附しなければならないという法律があり、リカバリーカフェの運営資金の一部となっている。



入り口の看板（リカバリーのための“家”と書かれている）



リカバリーカフェの支援者の思い

4. 質疑応答

Q1

この施設に通っているホームレスの方は、普段どのような場所で生活しているのか？

A1

この施設に訪れるホームレスの35%はテント生活、25%はシェルター、30%は公共施設で生活している。以前は80%がテント生活に戻っていったが、街全体で再開発が行われており、路上でのテント生活も難しくなっている。

Q2

この施設に通っていたホームレスの方は、どの程度の割合で再び路上生活等に戻るのか？

A2

→リカバリーカフェの会員のうち、路上生活や依存症に戻ってしまう確率は、不明だが、約30%が3カ月のうちに施設を去り、40%が1年で去り、残りの30%が1年以上残る。

Q3

この施設の利用者の男女の構成比は？

A3

利用者の35%は女性が占めている。

Q4

ホームレスや中毒患者以外に、今後団体として支援していく対象はどのような層が考えられるか？

A4

富裕層における各種依存症や精神疾患も深刻化しており、施設として富裕層との交流を図りたいと考えているが、シアトルの富裕層はホームレスを恐れる傾向にあり、リカバリーカフェに来ることを怖がっている。若年層では、ネットカジノの中毒患者も増えてきており、彼らに対する支援もリカバリーカフェが今後取り組んでいくテーマとなる。



カフェの様子



リカバリーカフェのある再開発地域

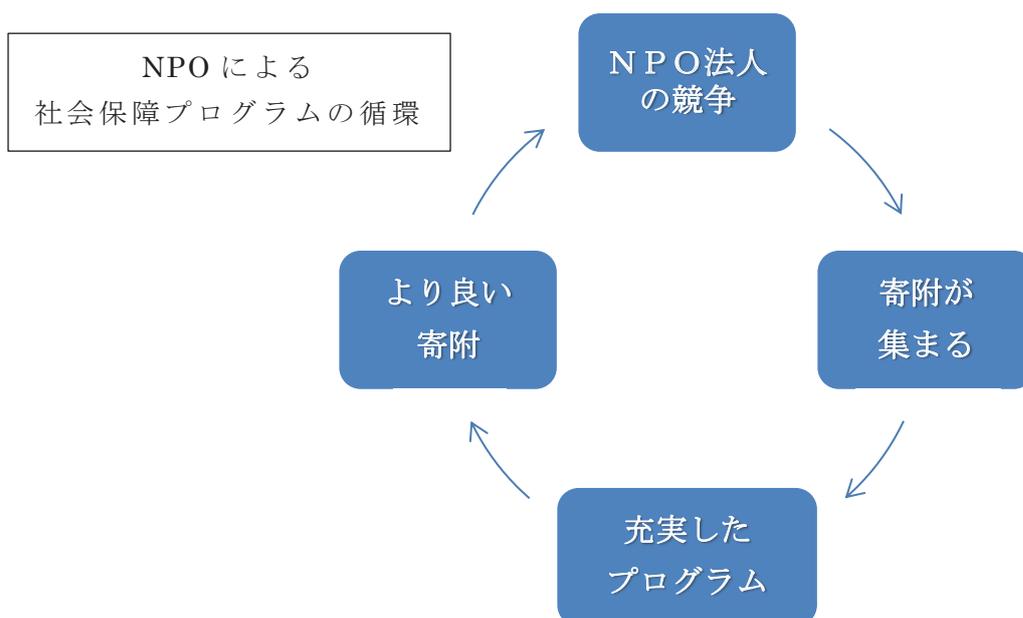
まとめ

アメリカの福祉は、自らが必要な支援を自力で探すことが原則である。日本の生活保護制度のような、包括的な公的扶助制度がないため、自ずと NPO 法人の果たす役割が大きいことが特徴といえる。

今回の視察先である、「グッドウィル」、「リカバリーカフェ」は、それぞれ個人、企業、財団からの寄附で運営費用の大半が賄われている。キリスト教の教えでは、寄附は尊い義務とされ、社会貢献の一つとして一般的に行われており、NPO 法人による支援活動を支えている。一方、日本では、ふるさと納税やクラウドファンディングなど、寄附への理解が社会に浸透しつつあるが、支援の幅は限定的である。個人が福祉への関心を持ち、社会貢献する姿勢は学ぶべき点が多い。

また、「グッドウィル」による多種多様な就労支援、「リカバリーカフェ」による様々な問題を抱える人たちが悩みを共有する場の提供や、日常生活を取り戻す支援は先進的であり、日本でも行われている生活困窮者や障がい者への NPO 法人による福祉制度のはざまにある課題に対する支援の参考となる取り組みである。

NPO 法人の運営を支える仕組みとして、公益活動への個人寄附の増加が鍵となる。現在、日本では生活保護費に莫大な予算を割いている。仮に、その生活保護費の一部でも、NPO への寄附にシフトできれば、アメリカにおける寄附文化にも劣らない資金の循環がうまれるのではないか。個人寄附の文化が根付けば、公的資金（税金）を原資とした社会保障制度が転換され、個人の税負担も軽減される可能性がある。加えて、個人寄附を原資とした市民主体の NPO 法人活動もより活発となる。NPO 法人の競争が生まれ、良い活動を行う団体に寄附が集まるようになり、社会保障のプログラムがより充実する。



現状の生活保護制度は、使途が限定されない現金の給付となっているが、今回視察した事例では、自立した生活に必要な知識や教養を身に付けさせるプログラムを提供し、社会復帰までをワンストップで支援するなど、サービスの提供は行うが、現金は支給されない。

以上のように、日本とアメリカで社会福祉制度の差や NPO 法人に係る課題の差はあるものの、アメリカで行われている支援は、将来の日本がよりよい福祉国家となるための一助として、今後の福祉政策の参考とすべきであると考えます。また、NPO 法人活動への理解と関心を深めるために、行政がその活動を啓発し、その結果として寄附が集まり、より良い福祉活動が円滑に行われることが望まれる。